

平成29年度

決算

一般会計

歳入 142億8646万6千円

地方交付税 (19.8%)
28億2642万3千円
一定の行政サービスの水準を維持するために国から交付されたお金

町税 (25.8%)
36億8312万9千円
町民税、固定資産税、軽自動車税、町たばこ税、都市計画税

町債 (17.1%)
24億4911万9千円
建設事業などに対して借り入れたお金

繰入金 (7.5%)
10億7691万6千円
基金の取り崩しなど

国庫支出金 (10.9%)
15億5193万1千円
国からの補助金など

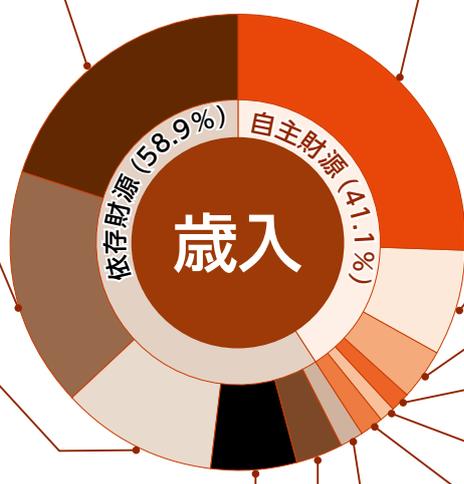
繰越金 (3.5%)
5億656万4千円
前年度からの繰越金

県支出金 (6.1%)
8億7156万8千円
県からの補助金など

使用料及び手数料 (1.5%)
2億1835万1千円

地方消費税交付金 (3.4%)
4億8231万4千円
地方消費税のうち町に交付されたお金

財産収入 (1.1%)
1億5548万6千円



地方譲与税ほか (1.6%)
2億2738万5千円

分担金及び負担金ほか (1.7%)
2億3728万円

平成29年度会計別決算

(▲はマイナスを表す)

一般会計・特別会計

会計名	歳入額	歳出額	差引額
一般会計	142億8646万6千円	137億5213万8千円	5億3432万8千円
特別会計			
国民健康保険特別会計	43億5957万円	37億2244万9千円	6億3712万1千円
公共下水道事業特別会計	14億3833万円	13億5387万9千円	8445万1千円
後期高齢者医療特別会計	4億5114万8千円	4億4190万9千円	923万9千円
介護保険特別会計	28億8445万1千円	26億9186万5千円	1億9258万6千円
磯城郡介護認定審査会共同設置特別会計	1475万5千円	1394万5千円	81万円

企業会計

会計名	収入額	支出額	差引額
水道事業会計			
収益的収入及び支出	8億7690万5千円	8億3029万9千円	4660万6千円
資本的収入及び支出	1億7053万3千円	3億4474万4千円	▲1億7421万1千円

平成29年度の決算が、町議会第3回定例会で認定されました。皆さんに納めていただいた大切な税金などが住みよいまちづくりなどのよに使われたのか、その概要を紹介します。

図 財政課財政係 ☎ 34・2072

性質別歳出

普通建設事業 (18.5%)
25 億 4799 万 9 千円

道路や公園の建設など



補助費等 (16.0%)

22 億 433 万 2 千円

一部事務組合への負担金や各種団体補助など

扶助費 (14.8%)

20 億 3371 万 1 千円

高齢者、障がい者、児童への援助など



人件費 (13.5%)

18 億 5430 万 2 千円

職員の給与、議員報酬など

繰出金 (12.4%)

17 億 221 万 6 千円

他会計への支出

物件費 (11.7%)

16 億 1248 万 2 千円

委託料、光熱水費、事務用品などの消費的な支出



公債費 (8.6%)

11 億 8343 万 8 千円

町債の返済など

積立金など (4.5%)

6 億 1365 万 8 千円

歳出合計

137 億 5213 万 8 千円

歳出 137 億 5213 万 8 千円

商工費 (0.4%)

5001 万 3 千円

商工業、観光の振興など

議会費 (0.9%)

1 億 2938 万 4 千円

議会の運営

農林水産業費 (1.7%)

2 億 3562 万 4 千円

農業振興、生産基盤整備など

消防費 (3.9%)

5 億 3635 万 7 千円

消防、防災など

公債費 (8.6%)

11 億 8343 万 8 千円

町債の返済など

総務費 (11.8%)

16 億 2678 万 1 千円

庁舎管理、徴税、戸籍、選挙、統計など

土木費 (14.5%)

19 億 8951 万 2 千円

道路・河川整備、都市計画、住宅など

民生費 (26.5%)

36 億 5072 万 9 千円

高齢者、障がい者、児童の福祉の増進、人権啓発など

教育費 (16.0%)

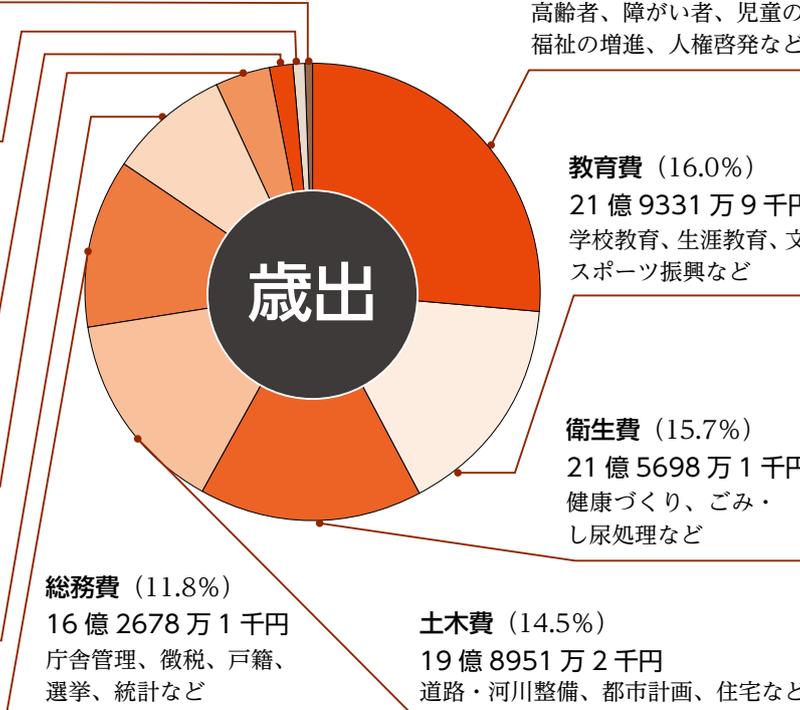
21 億 9331 万 9 千円

学校教育、生涯教育、文化・スポーツ振興など

衛生費 (15.7%)

21 億 5698 万 1 千円

健康づくり、ごみ・し尿処理など



一般会計

実質収支は

3 億 4513 万 4 千円の黒字

一般会計は、歳入歳出差し引き額が 5 億 3432 万 8 千円となり、翌年度に繰り越すべき財源 1 億 8919 万 4 千円を除くと、実質的な黒字は 3 億 4513 万 4 千円となりました。なお、前年度の実質的な黒字は 4 億 5151 万 7 千円でした。

歳入で最も大きな割合を占めるのは町民の皆さんが納めた町税で、前年度に比べ約 3600 万円増加し、約 36 億 8300 万円となりました。歳出については、整備の最終年度となった唐古・鍵遺跡史跡公園や交流促進施設（道の駅）にかかる建設事業費が多額になったことなどから、教育費が約 8 億 9600 万円、土木費が約 4 億 5900 万円それぞれ増加しました。

特別会計

5つの会計決算はすべて黒字

特別会計とは、特定の事業を行うための経費を一般会計と区別する必要がある場合に設置する会計で、5つの特別会計の決算額は右表のとおりです。なお、公共下水道事業特別会計は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用した企業会計に移行しました。

水道事業会計

収益的収支は

3 億 679 万 6 千円の黒字

独立採算で運営を行う公営企業に水道事業があります。決算額は右表のとおりです。収益的収支は損益計算による当年度純利益が 3 億 679 万 6 千円生じ黒字決算となりました。なお、資本的収支は 1 億 7421 万 1 千円の不足が生じたため、過年度分損益勘定留保資金や積立金などで補填しました。

まちの将来像〜子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした暮らしを楽しむまち たわらもと〜 の実現に向けて

平成29年度実施事業の紹介

1 子育ての願いをかなえるまちづくり

南幼稚園園舎耐震補強等事業

6681万8千円

園児の安全と快適な環境を確保するため、園舎の耐震補強と、断熱・遮熱性能を高める改修工事を行いました。

中学校給食棟設計事業

1562万7千円

中学校給食の開始に向けて、田原本中学校、北中学校に給食棟を新設するための基本実施一括設計を行いました。

子育て包括支援センター事業

584万円

妊娠から子育て期にかけての子育て支援を切れ目なく包括的に行うため、専門職員を配置し訪問指導や相談支援、健康教室を実施しました。

2 健康で安心な暮らしを支えるまちづくり

地域包括支援センター事業（高齢者施策）
4546万円

高齢者の皆さんがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、介護・福祉・健康・医療など、さまざまなサービスを実施しました。

地域福祉計画・障害福祉計画の策定

432万円

福祉推進の方針などを明らかにし関連する計画や施策を総合的に定めた地域福祉計画を策定しました。また、障害福祉計画の再構築を行い、今後のサービス体制や方針を定めました。

3 潤いや喜びを与える学びとスポーツのまちづくり

唐古・鍵遺跡史跡公園整備事業

8億2353万1千円

住民の憩いの場となるとともに、弥生時代の生活を追体験できる史跡公園としての整備が完了し、今年4月に開園しました。



▲唐古・鍵遺跡史跡公園

スケートボードパーク整備事業

1575万6千円

中央体育館のゲートボール場跡地を活用し、スケートボードパークに改修しました。



▲スケートボードパーク

4 安心で快適な暮らしを支えるまちづくり

新ごみ処理施設の建設負担金

8億7073万5千円

本町と御所市、五條市の3市町で構成するやまと広域環境衛生事務組合で整備を進め、昨年の6月に完成した「やまとクリーンパーク」の整備に係る費用を負担しました。

清掃工場解体事業

1億3565万円

平成29・30年度の2カ年度で計画している清掃工場の解体に着手しました。

一般下水路事業

1億190万1千円

内水被害を減らすための治水対策として、西竹田地区の雨水調整池整備工事などに取り組みました。

5 賑わいと活力あふれるまちづくり

交流促進施設（道の駅）整備事業

5億7150万9千円

唐古・鍵遺跡史跡公園と連携し、来訪者と地域住民のふれあいや交流の場、観光などの情報発信の拠点として整備を行い、今年4月にオープンしました。



▲道の駅レストイ 唐古・鍵

農業基盤対策事業

1億1053万1千円

良好な田園の維持と効率的な農業の推進を図るため、農道や水路などの農業基盤の整備を行いました。

6 住民とともに実現するまちづくり

ふるさと応援寄附金推進事業

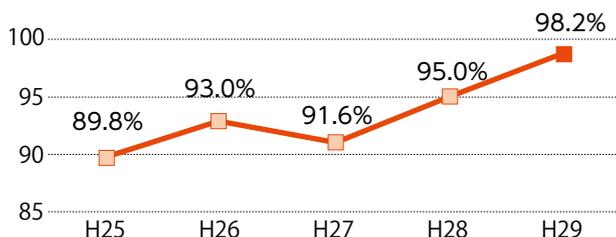
371万7千円

インターネットでの寄附金申請受付を開始し、町のPRや地域事業者の販路拡大など地域産業や観光の活性化のより一層の推進を図りました。

指標でみる財政状況

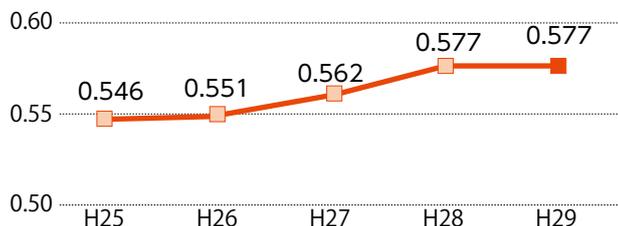
経常収支比率 98.2%

財政構造の弾力性を示す指標で、町税などの経常的な収入が人件費や公債費などの経常経費にどれくらい充てられているかを表しています。平成 29 年度は、歳出のうち他会計への経常的な繰り出しが増加したことなどから、前年度に比べ 3.2 ポイント上がりました。



財政力指数 0.577

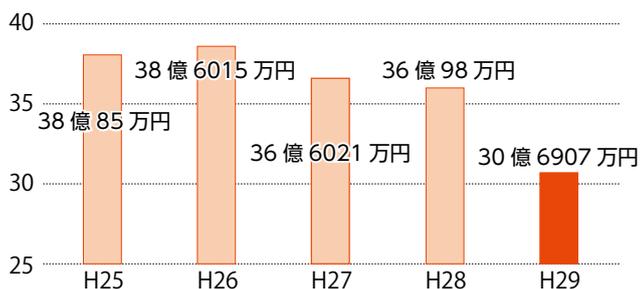
標準的な行政経費に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表すもので、指数が高いほど財源に余裕があることを示します。近年は 0.55 前後で推移しています。



基金残高 30 億 6906 万 7 千円

普通会計には、純粋な貯蓄といえる財政調整基金・減債基金、また、特定目的のための福祉基金・ごみ処理施設整備基金・ふるさと応援基金があります。

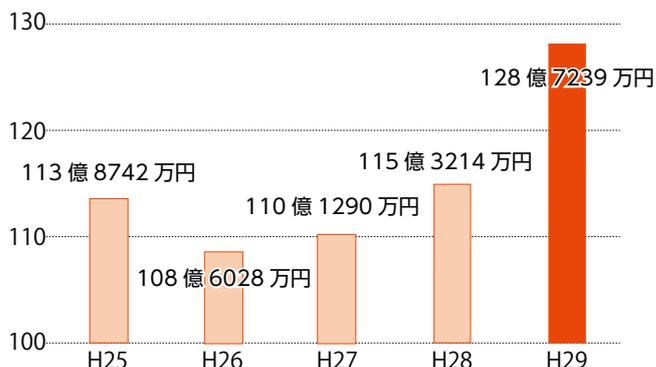
平成 29 年度は、大型事業の実施などにより多額の財源が必要となったことから、財政調整基金を約 3 億 9500 万円取り崩したほか、ごみ処理施設整備基金についても新ごみ処理施設整備のため約 1 億 4900 万円を取り崩し、基金全体では前年度に比べ約 5 億 3200 万円減少しました。



※普通会計とは、一般会計と特別会計のうち該当するものを合わせた会計で、本町では平成 29 年度は一般会計のみです。

町債残高 128 億 7239 万 2 千円

町債残高（普通会計）は平成 16 年度をピークに毎年減少してきましたが、新清掃工場などの大型事業の実施に伴い平成 27 年度に増加に転じ、平成 29 年度についても新清掃工場や交流促進施設（道の駅）、唐古・鍵遺跡史跡公園の整備などに町債を活用したことから、前年度に比べ約 13 億 4000 万円増加しました。



健全化判断比率

町の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標です。いずれの指標も国の基準を下回りましたので良好な状態にありますが、引き続き一層の財政健全化に取り組んでいきます。

指標	田原本町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	14.02%	20.00%
連結実質赤字比率	—	19.02%	30.00%
実質公債費比率	7.2%	25.0%	35.0%
将来負担比率	73.3%	350.0%	

※赤字額がないため、実質赤字比率、連結実質赤字比率は「—」表示となります。

用語説明

・**実質赤字比率**…標準的な収入に対する普通会計の実質的な赤字の割合
 ・**連結実質赤字比率**…標準的な収入に対する全会計の実質的な赤字の割合
 ・**実質公債費比率**…標準的な収入に対して普通会計が負担する実質的な借入金の返済の割合
 ・**将来負担比率**…標準的な収入に対して普通会計が将来負担すべき負債の割合

資金不足比率

地方公営企業の資金不足額が事業規模に対してどの程度あるかを示すものです。水道事業会計・公共下水道事業特別会計はともに資金不足額がないため該当はなく指標上は問題ありませんでした。

特別会計名	田原本町	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
公共下水道事業特別会計	—	20.0%

※経営健全化基準とは、早期健全化基準に相当する基準です。
 ※資金の不足額がないため、資金不足比率は「—」表示となります。